広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	石垣りん四随筆集初出一覧
Author(s)	竹中，典子；西原，大輔
Citation	広島大学日本語教育研究 ， 31 ： 17 - 33
Issue Date	2021-03-31
DOI	
Self DOI	10.15027/50906
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050906
Right	Copyright (c) 2021 広島大学大学院人間社会科学研究科日本語教育学プログラム
Relation	

石垣りん四随筆集初出一覧

竹中　典子・西原　大輔

Lists of First Appearances, Four Collections of Essays by Ishigaki Rin

Noriko TAKENAKA・Daisuke NISHIHARA

詩人石垣りん（一九二〇～二〇〇四）は、四冊の随筆集を刊行しています。

一、第一随筆集『ユーモアの鎖国』、北洋社、
　一九七三（昭和四十八）年二月十二日
二、第二随筆集『焔に手をかざして』、筑摩書房、
　一九八〇（昭和五十五）年三月五日
三、第三随筆集『夜の太鼓』、筑摩書房、
　一九八九（平成元）年五月二十五日
四、第四随筆集『詩の中の風景――くらしの中によみがえる――』、
　婦人之友社、一九九二（平成四）年十月十五日

この四冊の随筆集には、初出情報が記載されています。本稿では、その記載情報を手がかりに、現物の確認を行いました。作成するにあたっては、国立国会図書館、日本近代文学館、広島大学図書館、広島県立図書館、南伊豆町立図書館石垣りん文学記念室に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

一、第一随筆集『ユーモアの鎖国』、北洋社、
一九七三（昭和四十八）年二月十二日発行

1、契、巻頭詩
『断層』、第四十八号、文苑社、
一九四二（昭和十七）年十月一日、標題紙に掲載、
作者名を石垣りん子と表記
2、新巻
『詩と批評』、創刊号、昭森社、
一九六六（昭和四十一）年五月一日、三四―三五頁
3、花嫁
『暮しの手帖』、第九十一号、暮しの手帖社、
一九六七（昭和四十二）年九月五日、一一一―一一二頁、
コーナー名「雑記帳」
4、宿借り
『サンケイ新聞』、サンケイ新聞社、
一九六九（昭和四十四）年四月二十日、一八面
5、夜叉
『暮しの手帖』、第九十一号、暮しの手帖社、
一九六七（昭和四十二）年九月五日、一〇一頁、
コーナー名「雑記帳」、
作者名を岩科さく子と表記
6、朝のあかり
『暮しの手帖』、第九十七号、暮しの手帖社、
一九六八（昭和四十三）年十月一日、一〇九―一一〇頁、
コーナー名「雑記帳」
7、はまぐり
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十一日、九面、
コーナー名「家庭」
8、甘栗
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十二日、九面、
初出題名「甘グリ」、
コーナー名「家庭」
9、美味
『新潟日報』、新潟日報社、

一九七二（昭和四十七）年四月二十三日、一一面、
コーナー名「家庭」
10、ラーメン
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十四日、九面、
コーナー名「家庭」
11、バナナ
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十五日、九面、
コーナー名「家庭」
12、お茶
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十七日、一一面、
コーナー名「家庭」
13、うわさ
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十八日、一一面、
コーナー名「家庭」
14、季節
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十九日、一〇面、
コーナー名「家庭」
15、シジミ
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月二十六日、八面、
コーナー名「家庭」
16、おそば
『新潟日報』、新潟日報社、
一九七二（昭和四十七）年四月三十日、一一面、
コーナー名「家庭」
17、まじめな魚
『COOK』、第十四巻第十号、千趣会、
一九七一（昭和四十六）年十月、八八―八九頁、
コーナー名「Essay」
18、夏の日暮れに
『文学の旅６／伊豆・富士・箱根・湘南』、千趣会、
一九七四（昭和四十九）年八月一日、二二二―二二五頁、
初出題名「夏の日暮れに―私の西伊豆―」
19、試験管に入れて
『河北新報』、河北新報社、
一九七一（昭和四十六）年十一月三十日、七面
20、鍵
『楽しいわが家』、全国信用金庫協会、
一九七一（昭和四十六）年五月、四―五頁
21、ユーモアの鎖国
『展望』、第一四一号、筑摩書房、
一九七〇（昭和四十五）年九月一日、一三―一四頁、
コーナー名「展望・軍国主義の貌」
22、炎える母の季節
『図書』、第二四九号、岩波書店、
一九七〇（昭和四十五）年五月一日、二〇―二一頁、
23、お酒かかえて
『酒』、第十九巻第六号、酒之友社、
一九七一（昭和四十六）年六月一日、一七―一九頁、
コーナー名「女が酒を飲むとき」
24、お礼
『西脇順三郎全集第三巻・月報』、筑摩書房、
一九七一（昭和四十六）年七月六日、六―七頁
25、日記
『詩と批評』、第二巻第四号、昭森社、
一九六七（昭和四十二）年五月一日、七二―七三頁
26、春の日に
『思想の科学』、第一一八号、思想の科学社、
一九七一（昭和四十六）年七月一日、六九頁、

27、けちん坊
『行友ニュース』、日本興業銀行行友会、
一九五八（昭和三十三）年一月二十日、現物未確認
28、絵の中の繭
『会沢貞子個展』、出版社不明、
一九七二（昭和四十七）年四月十七日、現物未確認
29、花よ、空を突け
『ミセス』、第九十九号、文化服装学院出版局、
一九六九（昭和四十四）年四月七日、一八八―一九一頁、
副題「詩についての告白」、
コーナー名「詩と人と」
30、事務員として働きつづけて
『食生活』、第六十六巻、国民栄養協会、
一九七二（昭和四十七）年三月一日、三四―三五頁、
コーナー名「特集／魅力ある職業人になろう」
31、五円が鳴いた
『地上』、第二十六巻第十号、家の光協会、
一九七二（昭和四十七）年十月一日、二〇―二一頁、
コーナー名「巻頭随想」
32、花とお金
『小原流挿花』、第二十一巻第四号、小原流文化事業部、
一九七一（昭和四十六）年四月一日、一四―一五頁
33、目下工事中
『婦人民主新聞』、婦人民主クラブ、
一九六〇（昭和三十五）年三月二十七日、五面、
コーナー名「随筆」
34、よい顔と幸福
『行友会誌』、日本興業銀行行友会、
一九六〇（昭和三十五）年十二月、現物未確認
35、事務服
『文藝春秋』、第五十巻第九号、文藝春秋、
一九七二（昭和四十七）年七月一日、八一―八二頁
36、晴着
『ＮＯＭＡプレスサービス』、第二〇三号、日本事務能率協会、
一九七一（昭和四十六）年十一月二十日、二一―二二頁、
コーナー名「随筆」
37、領分のない人たち
『マイファミリー』、第十三号、味の素株式会社広報室、
一九七二（昭和四十七）年十月一日、一六―一八頁、
初出題名「領分のない人たちこそ個人の殻を破らねば……」、
コーナー名「第２部＝わたしの意見」「特集：おばあちゃんの領分は？」
38、生活の中の詩
『芸術生活』、第二十二巻第六号、芸術生活社、
一九六九（昭和四十四）年六月一日、八〇―八一頁
39、詩を書くことと、生きること
『図書』、第二六四号、岩波書店、
一九七一（昭和四十六）年八月一日、八―一六頁
40、覚え書
『日本詩集 1961―1』、国文社、
一九六一（昭和三十六）年七月五日、一九五頁、
『詩と批評』、第二巻第二号、昭森社、
一九六七（昭和四十二）年三月一日、一一四頁
41、女湯
『わが詩わが心』、芸術生活社、
一九七〇（昭和四十五）年十二月二十一日、二六―二九頁
42、立場のある詩
『詩の本 第2巻 詩の技法』、筑摩書房、
一九六七（昭和四十二）年十一月二十日、二八三―二九九頁
43、事実とふれ合ったとき
『詩作ノート』、飯塚書店、
一九六八（昭和四十三）年十一月一日、一七七―一八四頁
44、持続と詩
『読売新聞』、読売新聞社、
一九六九（昭和四十四）年五月十八日、一八面、

副題「ラクな姿勢、バカミタイ」「変革への希望つなぐ」、
コーナー名「文芸ウイークリー」
45、表札のうしろ
『ミセス』、第一五五号、文化出版局、
一九七二（昭和四十七）年十一月七日、二四八―二四九頁
46、第一行はとび出してきます
『ユリイカ』、第四巻第三号、青土社、
一九七二（昭和四十七）年三月一日、八〇頁、
コーナー名「第一行をどう書くか」
47、あとがきのこと
『詩学』、第二十四巻第五号、詩学社、
一九六九（昭和四十四）年六月三十日、三六頁、
初出題名「あとがき」
48、清岡卓行『四季のスケッチ』感想
『詩と批評』、第一巻第八号、昭森社、
一九六六（昭和四十一）年十二月一日、八八頁、
初出題名「清岡卓行詩集『四季のスケッチ』」
49、生活詩
『群像』、第二十四巻第五号、講談社、
一九六九（昭和四十四）年五月一日、二二四―二二五頁
50、出来ること出来ないこと
『詩をどう書くか』、社会思想社、
一九七〇（昭和四十五）年六月三十日、一五五―一六九頁
51、風信
『東京新聞』、東京新聞社、
一九七二（昭和四十七）年二月十五日、夕刊四面
52、食扶持のこと
『学習のひろば』、第一三一号、労働者学習センター、
一九七三（昭和四十八）年一月一日、六六―六七頁
53、眠っているのは私たち
『学習のひろば』、第九十号、労働者学習センター、
一九六九（昭和四十四）年八月一日、五二―五三頁
54、買えなかったもの
『蛍雪時代』、第四十二巻第十号、旺文社、
一九七二（昭和四十七）年十一月一日、七六頁、
コーナー名「ずいひつ」
55、私の新しい空
『学生通信』、第八十二号、三省堂、
一九六九（昭和四十四）年十一月一日、現物未確認
56、仕事
『図書』、第二五八号、岩波書店、
一九七一（昭和四十六）年二月一日、二四―二六頁
57、個人の手・公の手
『こすもす』、出版社不明、
一九七二（昭和四十七）年八月、現物未確認
58、生活と詩
『文化評論』、第一三三号、日本共産党中央委員会、
一九七二（昭和四十七）年九月一日、一〇七―一〇八頁、
コーナー名「随想」
59、犯された空の下で
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七二（昭和四十七）年七月二十六日、夕刊五面、
副題「庶民の苦しみ、なぜ放置」「四日市公害判決に思う」
「勝っても帰らぬ犠牲者」、
コーナー名「文化」
60、待つ
『講座おんな 1 なぜおんなか』、筑摩書房、
一九七二（昭和四十七）年十二月二十日、二三八―二五二頁
61、荷
『女子文苑』、第八巻第一号、女子文苑社、
一九四一（昭和十六）年一月一日、八―一八頁、
作者名を石垣りん子と表記、
女子文苑賞受賞
62、幕張行

『断層』、第五十四号、文苑社、
一九四三（昭和十八）年五月一日、二―二一頁、
作者名を石垣りん子と表記

二、第二随筆集『焔に手をかざして』、筑摩書房、一九八〇（昭和五十五）年三月五日発行

1、呑川のほとり
『現代詩手帖』、第十九巻第九号、思潮社、
一九七六（昭和五十一）年八月一日、二〇二頁、
コーナー名「詩人・わが街」「大田区南雪谷」
2、通じない
『季刊 ひろば』、冬季号六〇号、至光社、
一九七三（昭和四十八）年十二月、三五―三六頁、
コーナー名「茶の間」
3、いいなあ・いいわねえ
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七三（昭和四十八）年五月三十日、一七面、
副題「要するに……」
4、ぜいたくの重み
『婦人之友』、第七十二巻第十二号、婦人之友社、
一九七八（昭和五十三）年十二月一日、八四―八五頁、
コーナー名「家計特集・わたしの〝ぜいたく〟」
5、貧しい食卓
『毎日ライフ』、第四巻第十一号、毎日新聞社、
一九七三（昭和四十八年）十月一日、八四頁、
副題「味さまざま」、
コーナー名「ユア・ライフ」「マイ・ライフ」
6、インスタントラーメン
『食生活』、第七十二巻第九号、国民栄養協会、
一九七八（昭和五十三）年九月一日、一二―一三頁、
副題「インスタント食品　私はこう思う」、
コーナー名「特集　インスタント食品を考える」
7、収穫祭
『毎日新聞』、毎日新聞社、
一九七五（昭和五十）年十一月九日、一三面
8、玄関先のハカリ
『みや通信』、出版社不明、
一九七八（昭和五十三）年七月十四日、現物未確認
9、街にあかりがついた日
『くらしのチャンネル』、出版社不明、
一九七六（昭和五十一）年三月、現物未確認
10、お便り
『短歌現代』、第三巻第六号、短歌新聞社、
一九七九（昭和五十四）年六月一日、一七頁、
コーナー名「随筆」
11、雨と言葉
『サンデー毎日』、第五十二年第二十九号、毎日新聞社、
一九七三（昭和四十八）年七月十五日、一一三―一一四頁、
初出題名「雨のことば」、
コーナー名「tea time」
12、二月のおみくじ
『サッポロビール』、出版社不明、
一九七六（昭和五十一）年二月、現物未確認
13、弁護
『潮』、第二二九号、潮出版社、
一九七八（昭和五十三）年六月一日、六二―六三頁、
コーナー名「ずいひつ・波音」
14、手袋と靴下
『プチせぞん』、出版社不明、
一九七四（昭和四十九）年十二月、現物未確認
15、着る人・つくる人
『ふうあい』、第十号、国際羊毛事務局、

一九七五（昭和五十）年十一月、Ａ１サイズ八つ折りのパンフレット
のようなもの
16、巣立った日の装い
『共同通信』、出版社不明、
一九七九（昭和五十四）年三月十七日、現物未確認
17、なぎさ
『現代の眼』、第十四巻第八号、現代評論社、
一九七三（昭和四十八）年八月一日、一八四―一八五頁、
コーナー名「随筆・近況報告」
18、女の手仕事
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七五（昭和五十）年六月十六日、一七面
19、春の土手
『赤ちゃんとママ』、第十巻第五号、赤ちゃんとママ社、
一九七五（昭和五十）年四月二十五日、二三頁、
コーナー名「ＥＳＳＡＹ」
20、器量
『食生活』、第六十七巻第六号、国民栄養協会、
一九七三（昭和四十八）年六月一日、三八頁、
副題「私と食器」、
コーナー名「特集　食器を考え直す」
21、くらげ
『大法輪』、第四十一巻第五号、大法輪閣、
一九七四（昭和四十九）年五月一日、三二―三三頁
22、年の暮れ
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、
一九七七（昭和五十二）年十一月二十六日、二五面、
コーナー名「歳時記」
23、電車の音
『暮しの手帖』、第二十三号、暮しの手帖社、
一九七三（昭和四十八）年四月一日、一五九頁、
コーナー名「雑記帳」
24、自分の耳
『生活の設計』、第六十八号、日本銀行内貯蓄増強中央委員会、
一九七七（昭和五十二）年一月、三頁、
コーナー名「ずいそう」
25、いたずら
『共同通信』、出版社不明、
一九七九（昭和五十四）年一月、現物未確認
26、愛車
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年七月十五日、二面、
コーナー名「随想」
27、庭
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年八月十二日、二面、
コーナー名「随想」
28、長い舌
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年九月九日、二面、
コーナー名「随想」
29、やさしさ
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年一月二十日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
30、せつなさ
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年二月十七日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
31、彼岸
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年三月十七日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
32、コイン・ランドリー

『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年四月十四日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
33、灯が消える
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年五月十二日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
34、ねむの花
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年六月九日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
35、七夕
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年七月七日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
36、夏木立
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年八月四日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
37、防災の日
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年九月一日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
38、曼珠沙華
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年九月二十九日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
39、教育勅語
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年十月二十七日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
40、勤労感謝
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年十一月二十四日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
41、冬至
『公明新聞』、公明党機関紙局、
一九七七（昭和五十二）年十二月二十二日、八面、
コーナー名「ことば歳時記」
42、綴り方
『ことばと教育』、第二巻第八号、三省堂、
一九七七（昭和五十二）年十二月二十日、一頁
43、自信キノコ
『月刊 教育の森』、第四巻第三号、毎日新聞社、
一九七九（昭和五十四）年三月一日、一七―一九頁、
コーナー名「私が子どもだったころ」
44、先生と詩
『教室の窓 中学国語』、第一六二号、東京書籍、
一九七三（昭和四十八）年九月一日、二頁
45、顧みて、いま―戦後三十年
『東京新聞』、東京新聞社、
・一九七四（昭和四十九）年八月二日、夕刊四面、
初出題名「顧みて、いま―戦後30年の検証―⑩」、
副題「詩を手がかりにして」「また、新しいあやまちへ？」
「何かがはじまっているおそろしさ」
・一九七四（昭和四十九）年八月三日、夕刊四面、
初出題名「顧みて、いま―戦後30年の検証―⑪」、
副題「宮居の方角」「本当に真面目だった我ら」
「『私は神ではない』といわれても…」
・一九七四（昭和四十九）年八月五日、夕刊四面、
初出題名「顧みて、いま―戦後30年の検証―⑫」、
副題「五円のカナシミ」「国の保証が信じられない」
「定年を前にインフレの生活不安」
46、心の不買を―ミス三十歳に

『東京新聞』、東京新聞社、
一九七三（昭和四十八）年四月二十五日、七面、
初出題名「ミス三十歳に〝心の不買〟を」、
副題「一つの提案」「自分を充実させる」「世間の目に負けないで」
コーナー名「家庭」

47、写真と詩
『群像』、第二十九巻第三号、講談社、
一九七四（昭和四十九）年三月一日、二〇八―二〇九頁

48、焔に手をかざして
『世界名作全集 第16巻』、国際情報社、
一九七三（昭和四十八）年八月、現物未確認

49、田舎のアンデルセン――私の読書遍歴
『週刊 読書人』、第九七三号、読書人、
一九七三（昭和四十八）年四月十六日、八面、
副題「言葉の形見を残してくれた老人」、
コーナー名「読書遍歴」

50、椅子
『図書』、第三一九号、岩波書店、
一九七六（昭和五十一）年三月、一頁、
コーナー名「読む人・書く人・作る人」

51、私と言葉
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年三月四日、一四面

52、買物籠に
『思想の科学』、二七九号、思想の科学社、
一九七七（昭和五十二）年一月一日、七九―八〇頁

53、言葉のこと
『研究と指導 高校クラスルーム』、第七巻第九号、旺文社、
一九七五（昭和五十）年一月一日、一―三頁、
初出題名「ことばのこと」、
コーナー名「言語随想」

54、女先生
『教員志望者のための季刊「教職課程」』、第一巻第四号、共同出版、
一九七五（昭和五十）年十二月二十五日、一五―一六頁、
コーナー名「ひろば」

55、バスケットはからっぽ
『仏教保育カリキュラム』、第九巻第十号、すずき出版、
一九七七（昭和五十二）年一月一日、七―八頁、
コーナー名「特集 私の幼児期」

56、春愁
『温泉』、第四十四巻第三号、日本温泉協会、
一九七六（昭和五十一）年三月一日、四―五頁

57、二人の来訪者
『鳥』、第十号、木の会、
一九七五（昭和五十）年十一月一日、一〇頁

58、銀行員の詩集
『詩人会議』、第十三巻第十一号、飯塚書店、
一九七五（昭和五十）年十一月一日、六四頁

59、私語
『酒』、第二十五巻第七号、酒之友社、
一九七七（昭和五十二）年七月一日、四二―四三頁

60、岡崎淑郎先生
『望星』、第五巻第十一号、東海教育研究所、
一九七四（昭和四十九）年十一月一日、一一一―一一二頁、
コーナー名「わが師――忘れえぬ教師像」

61、私の感じるユーモア
『婦人之友』、第六十八巻九号、婦人之友社、
一九七四（昭和四十九）年九月一日、六七―六八頁、
コーナー名「特集 家族生活とその容れもの」

62、つき合いの芽
『望星』、第四巻第六号、東海教育研究所、
一九七三（昭和四十八）年七月一日、五六―五八頁、
コーナー名「近所づきあい」

63、細紐

『郵政』、第二十五巻第九号、郵政弘済会、
一九七三（昭和四十八）年九月一日、一六―一七頁
64、医者と私
『医事研究』、出版社不明、
一九七八（昭和五十三）年七月、現物未確認
65、人のかたち
『ゆう』、出版社不明、
一九七三（昭和四十八）年八月、現物未確認
66、茶飲み話
『共同通信』、出版社不明、
一九七四（昭和四十九）年八月、現物未確認
67、母の子守歌
『おかあさんの勉強室』、第一巻第十二号、ＮＨＫサービスセンター、
一九七八（昭和五十三）年三月一日、一三―一五頁、
副題「第２章」
コーナー名「特集拝啓おかあさん――母親へ捧げる８章」
68、一本のネムの木
『文化評論』、第二二〇号、新日本出版社、
一九七九（昭和五十四）年八月一日、二五二―二五三頁、
コーナー名「花によせて」
69、なぎさの穴
『サンケイ新聞』、サンケイ新聞社、
一九七九（昭和五十四）年九月十日、夕刊五面、
コーナー名「文化」
70、福田正夫
『日本経済新聞』、日本経済新聞社、
・一九七七（昭和五十二）年八月一日、夕刊六面、
初出題名「福田正夫」、
副題「熱心に詩論を語りきかせる」、
コーナー名「心を打った男たち　上」
・一九七七（昭和五十二）年八月二日、夕刊六面、
初出題名「福田正夫」、
副題「困窮と、人助けの〃かなしみ〃」、
コーナー名「心を打った男たち　中」
・一九七七（昭和五十二）年八月三日、夕刊六面、
初出題名「福田正夫」、
副題「にじみ出る率直な人間味」、
コーナー名「心を打った男たち　下」
71、かたち
『婦人之友』、第七十一巻第三号、婦人之友社、
一九七七（昭和五十二）年三月一日、二〇六―二一一頁、
コーナー名「短篇」
72、終着駅
『サンケイ新聞』、サンケイ新聞社、
一九七五（昭和五十）年三月十二日、夕刊五面、
コーナー名「文化」
73、フリー・ゴー
『興流』、出版社不明、
一九七五（昭和五十）年十月、現物未確認
74、暮れのものさし
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七五（昭和五十）年十二月三十一日、九面、
副題「定年・三億円事件・お金の価値」
75、私はなぜ結婚しないか
『面白半分』、出版社不明、
一九七六（昭和五十一）年三月、現物未確認
76、可決
『行友ニュース』、日本興業銀行行友会、
一九七四（昭和四十九）年一月、現物未確認
77、四月の合計
『ＮＯＭＡ～ＰＳ』、出版社不明、
一九七九（昭和五十四）年二月五日、現物未確認
78、夜の海
『婦人公論』、第六八六号、中央公論社、

一九七三（昭和四十八）年七月一日、五七―五九頁
79、こしかた・ゆくすえ
『婦人之友』、第六十七巻第八号、婦人之友社、
一九七三（昭和四十八）年八月一日、七四―七五頁
80、写真
『うえの』、第一八五号、上野のれん会編集部、
一九七四（昭和四十九）年九月一日、六―八頁
81、軍旗祭
『母のひろば』、出版社不明、
一九七四（昭和四十九）年四月、現物未確認
82、火になる時
『目の眼』、第十三号、里文、
一九七七（昭和五十二）年十二月一日、四頁、
コーナー名「随筆」
83、深谷
『武州路』、出版社不明、
一九七九（昭和五十四）年一月、現物未確認
84、赤坂見付
『フレンドリー』、第六巻第三十二号、ホテルニューオータニ企画室、
一九七八（昭和五十三）年三月四月、七頁
85、双葉と両手
『こどものせかい』、第三十一巻第十一号、至光社、
一九七九（昭和五十四）年三月二十日、付録『わたしたちのページ』、三頁、
コーナー名「小さなお祈り」
86、「お」の字ぎらい
『朝日新聞』、朝日新聞社、
一九七三（昭和四十八）年八月十一日、一四面、
副題「お・と・し・よ・り」
87、雪
『文化評論』、第二〇二号、新日本出版社、
一九七八（昭和五十三）年二月一日、二一二―二一三頁、
コーナー名「二月のずいそう」
88、また来年いらっしゃい
『楽しいわが家』、第二十七巻第八号、全国信用金庫協会、
一九七九（昭和五十四）年八月、一四―一五頁
89、この岸で
『あけぼの』、出版社不明、
一九七七（昭和五十二）年九月、現物未確認

三、第三随筆集『夜の太鼓』、筑摩書房、一九八九（平成元）年五月二十五日発行

1、時の名称
『婦人之友』、第七十八巻第十二号、婦人之友社、
一九八四（昭和五十九）年十二月一日、六頁、
副題「時」
2、花いちもんめ
『毎日新聞』、毎日新聞社、
一九八〇（昭和五十五）年九月二十一日、九面、
コーナー名「私とわらべうた」
3、しつけ糸
『望星』、第一三八号、東海教育研究所、
一九八二（昭和五十七）年一月一日、八―九頁、
コーナー名「ずいひつ」
4、会社をやめたら
『野性時代』、第七巻第五号、角川書店、
一九八〇（昭和五十五）年五月一日、四〇二頁
コーナー名「タラのテーマ」
5、絵柄人柄
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八〇（昭和五十五）年一月十一日、一〇面
6、雪谷
『東京新聞』、東京新聞社、

一九八六（昭和六十一）年四月十八日、八面、
副題「呑川／何を呑んで／今日に至る?」、
コーナー名「まちのうた」
7、気になったことふたつ
『総合教育技術』、第三十三巻第九号、小学館、
一九七八（昭和五十三）年十月一日、一二―一四頁、
副題「〃問題を解くのではなく正解を暗記する〃という進学塾のチラシは私を戦慄させた」、
コーナー名「，78 潮流」
8、商店の目
『共同通信』、出版社不明、
一九八四（昭和五十九）年六月、現物未確認
9、鉛筆を削る
『手――もうひとつの生活』、第六号、クラフト センター ジャパン、
一九八〇（昭和五十五）年十月三十日、二五―二六頁、
コーナー名「クラフト手帖」
10、私のテレビ利用法
『毎日新聞』、毎日新聞社、
・一九八三（昭和五十八）年三月二十日、一〇面、
初出題名「私のテレビ利用法 上」、
副題「見たい時は、電車に乗って」
・一九八三（昭和五十八）年三月二十七日、一一面、
初出題名「私のテレビ利用法 下」、
副題「一番見たいのはニュース」
11、白い猫
『詩とメルヘン』、第十一巻第十一号、サンリオ、
一九八三（昭和五十八）年八月二十五日、五六―五七頁
12、大茄子・小茄子
『婦人之友』、第七十四巻第十号、婦人之友社、
一九八〇（昭和五十五）年十月一日、一八一―一八三頁、
コーナー名「生活随想」
13、蟬
『季刊 手紙』、第三号、オーデスク、
一九八五（昭和六十）年三月、一〇―一三頁
14、春の日、夢の島へ
『婦人之友』、第七十六巻第五号、婦人之友社、
一九八二（昭和五十七）年五月一日、五六―六〇頁、
コーナー名「核時代と私たち 5」
15、貼紙
『ちくま』、第一一五号、筑摩書房、
一九八〇（昭和五十五）年十月一日、一一頁、
初出題名「貼り紙」、
コーナー名「ひとり暮らし三話」
16、山姥
『ちくま』、第一一六号、筑摩書房、
一九八〇（昭和五十五）年十一月一日、一七頁、
コーナー名「ひとり暮らし三話」
17、火を止めるまで
『ちくま』、第一一七号、筑摩書房、
一九八〇（昭和五十五）年十二月一日、一一頁、
コーナー名「ひとり暮らし三話」
18、水はもどらないから
『人とつきあう法』、毎日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年十二月十五日、二三八―二四〇頁
19、相手の財布をいたわる
『人とつきあう法』、毎日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年十二月十五日、二四〇―二四二頁
20、同額紙幣の値打ち
『人とつきあう法』、毎日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年十二月十五日、二四二―二四四頁
21、声は盲目
『人とつきあう法』、毎日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年十二月十五日、二四五―二四六頁
22、オソレとあこがれとコッケイと

『人とつきあう法』、毎日新聞社、
一九七八（昭和五十三）年十二月十五日、二四七―二四九頁
23、運動会の空
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年十月七日、二面、
コーナー名「随想」
24、籠の鳥
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年十一月五日、二面、
コーナー名「随想」
25、美顔
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年十二月二日、二面、
コーナー名「随想」
26、冬の案山子
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九七九（昭和五十四）年十二月三十日、二面、
コーナー名「随想」
27、梅が咲きました
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年一月三十一日、一一面、
コーナー名「あしたへ」
28、子供一同
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年二月二十八日、一三面、
コーナー名「あしたへ」
29、一粒の米も、私も
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年五月二日、一三面、
初出題名「一粒の米も、私も…」、
コーナー名「あしたへ」
30、咲かせる
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年六月六日、一三面、
コーナー名「あしたへ」
31、見世物小屋の前で
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年七月十一日、一三面、
コーナー名「あしたへ」
32、笑い
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年八月十五日、一三面、
コーナー名「あしたへ」
33、秘宝
『赤旗』、日本共産党中央委員会、
一九八二（昭和五十七）年九月十九日、一三面、
コーナー名「あしたへ」
34、防犯カメラ
『こどものせかい』、第三十七巻第十一号、至光社、
一九八五（昭和六十）年三月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
35、鳥
『こどものせかい』、第三十七巻第十二号、至光社、
一九八五（昭和六十）年四月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
36、おばあさん
『ことばのせかい』、第三十八巻第一号、至光社、
一九八五（昭和六十）年五月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
37、空港で
『こどものせかい』、第三十八巻第二号、至光社、
一九八五（昭和六十）年六月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
38、八月
『ことばのせかい』、第三十八巻第三号、至光社、
一九八五（昭和六十）年七月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
39、港区で
『こどものせかい』、第三十八巻第四号、至光社、

一九八五（昭和六十）年八月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
40、花の店
『こどものせかい』、第三十八巻第五号、至光社、
一九八五（昭和六十）年九月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
41、隣人
『こどものせかい』、第三十八巻第六号、至光社、
一九八五（昭和六十）年十月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
42、保険
『こどものせかい』、第三十八巻第七号、至光社、
一九八五（昭和六十）年十一月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
43、風景
『こどものせかい』、第三十八巻第八号、至光社、
一九八五（昭和六十）年十二月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
44、早春
『こどものせかい』、第三十八巻第九号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年一月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
45、人形
『こどものせかい』、第三十八巻第十号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年二月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
46、さくら
『こどものせかい』、第三十八巻第十一号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年三月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
47、結界
『こどものせかい』、第三十八巻第十二号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年四月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
48、猫
『こどものせかい』、第三十九巻第一号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年五月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
49、飛び去る
『こどものせかい』、第三十九巻第二号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年六月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
50、遠いことばかり
『こどものせかい』、第三十九巻第三号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年七月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
52、その角の向うに
『こどものせかい』、第三十九巻第四号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年八月二十日、付録『にじのひろば』、二頁、
初出題名「その角の向こうに」
53、干す
『こどものせかい』、第三十九巻第五号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年九月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
54、夜の太鼓
『こどものせかい』、第三十九巻第六号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年十月二十日、付録『にじのひろば』、二頁、
初出題名「太鼓の音」
55、赤い自転車
『こどものせかい』、第三十九巻第七号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年十一月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
56、乙女たち
『こどものせかい』、第三十九巻第八号、至光社、
一九八六（昭和六十一）年十二月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
57、金貨と提灯
『こどものせかい』、第三十九巻第九号、至光社、
一九八七（昭和六十二）年一月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
58、縁日
『こどものせかい』、第三十九巻第十号、至光社、
一九八七（昭和六十二）年二月二十日、付録『にじのひろば』、二頁
59、「私の前にある鍋とお釜と燃える火と」の頃
『花神』、第二巻第二号、花神社、
一九八二（昭和五十七）年六月一日、一二頁、
初出題名『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』の頃
60、自作について
『現代の詩人』、第五巻、中央公論社、
一九八三（昭和五十八）年九月二十日、二一九―二三七頁

61、私の名前
『みや通信』、出版社不明、
一九八一（昭和五十六）年八月、現物未確認
62、思い出が着ている
『マダム』、出版社不明、
一九八〇（昭和五十五）年十月、現物未確認
63、悲しみと同量の喜び
『ひろば』、出版社不明、
一九八〇（昭和五十五）年冬、現物未確認
64、伊豆と私
『伊豆新聞』、伊豆新聞社、
一九八八（昭和六十三）年一月一日、三七面
65、松崎
『旅』、第六十三巻第三号、ＪＴＢ日本交通公社出版事業局、
一九八九（平成元年）年三月一日、五九―六〇頁、
初出題名「母のふるさと・松崎」、
コーナー名「エッセイ 伊豆・箱根に寄せるわが思い」
66、ウリコの目　ムツの目
『クロワッサン』、第七巻第二号、平凡出版、
一九八三（昭和五十八）年一月二十五日、二二―二三頁、
初出題名「ウリコの目、ムツの目」、
コーナー名「エッセイ　女から女へ」
67、砂糖壺
『明日の友』、第三十号、婦人之友社、
一九八〇（昭和五十五）年七月一日、四九―五三頁
68、詩篇　明日葉
『季刊Ｒ＊６』、鹿鳴荘、
一九八五（昭和六〇）年十一月、二―四頁
69、詩篇　風景
『季刊Ｒ＊６』、鹿鳴荘、
一九八五（昭和六〇）年十一月、五頁

四、第四随筆集『詩の中の風景――くらしの中によみがえる――』、婦人之友社、一九九二（平成四）年十月十五日発行

1、詩の中の風景
『婦人之友』、第八十一巻第七号、婦人之友社
一九八七（昭和六十二）年七月一日、一七〇―一七一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる……」
2、旅へのいざない
『婦人之友』、第八十二巻第三号、婦人之友社
一九八八年（昭和六十三）年三月一日、一七四―一七五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
3、異種の花
『婦人之友』、第八十一巻第十一号、婦人之友社、
一九八七（昭和六十二）年十一月一日、一五八―一五九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる……」
4、何もないところ
『婦人之友』、第八十四巻第三号、婦人之友社
一九九〇（平成二）年三月一日、五二―五三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
5、揺れる
『婦人之友』、第八十二巻第四号、婦人之友社
一九八八（昭和六十三）年四月一日、一七八―一七九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる……」
6、夢のかたち
『婦人之友』、第八十五巻第十一号、婦人之友社
一九九一（平成三）年十一月一日、七八―七九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
7、期待
『婦人之友』、第八十二巻第九号、婦人之友社
一九八八（昭和六十三）年九月一日、一六〇―一六一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」

8、青い絵
『婦人之友』、第八十四巻第七号、婦人之友社
一九九〇（平成二）年七月一日、六二―六三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
9、ひとつの詩にふたつの影
『婦人之友』、第八十五巻第三号、婦人之友社
一九九一（平成三）年三月一日、一八二―一八三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
10、煙草の火
『婦人之友』、第八十四巻第十一号、婦人之友社
一九九〇（平成二）年十一月一日、八四―八五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
11、巣
『婦人之友』、第八十四巻第五号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年五月一日、一六二―一六三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
12、誕生
『婦人之友』、第八十五巻第九号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年九月一日、一八二―一八三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
13、堰
『婦人之友』、第八十五巻第六号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年六月一日、一八二―一八三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
14、六月の墓
『婦人之友』、第八十三巻第六号、婦人之友社
一九八九（平成元）年六月一日、一六六―一六七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
15、竹の声
『婦人之友』、第八十三巻第十号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年十月一日、六二―六三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
16、昔語り
『婦人之友』、第八十二巻第二号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年二月一日、一八四―一八五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
17、あずかり知らぬところ
『婦人之友』、第八十四巻第八号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年八月一日、一五四―一五五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
18、遠い潮騒
『婦人之友』、第八十四巻第九号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年九月一日、一五六―一五七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
19、詩の構図
『婦人之友』、第八十三巻第七号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年七月一日、一五六―一五七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
20、ハエとひぐらし
『婦人之友』、第八十五巻第七号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年七月一日、八四―八五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
21、目のウロコ
『婦人之友』、第八十五巻第十二号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年十二月一日、一二六―一二七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
22、犬の分際
『婦人之友』、第八十五巻第八号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年八月一日、一七八―一七九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
23、山芋の少年
『婦人之友』、第八十三巻第八号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年八月一日、一五四―一五五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」

24、静寂の破れ目
『婦人之友』、第八十三巻第二号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年二月一日、四八―四九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
25、碑銘
『婦人之友』、第八十三巻第五号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年五月一日、一五八―一五九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
26、道
『婦人之友』、第八十四巻第二号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年二月一日、七二―七三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
27、演説
『婦人之友』、第八十二巻第一号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年一月一日、一六八―一六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
28、味覚
『婦人之友』、第八十二巻第五号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年五月一日、一八六―一八七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
29、きのうのこと
『婦人之友』、第八十二巻第八号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年八月一日、一六八―一六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
30、会釈
『婦人之友』、第八十二巻第十号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年十月一日、一五〇―一五一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
31、秋が歩いてゆく
『婦人之友』、第八十一巻第十号、婦人之友社、
一九八七（昭和六十二）年十月一日、一七一―一七三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
32、そのかなたに
『婦人之友』、第八十一巻第九号、婦人之友社、
一九八七（昭和六十二）年九月一日、一六四―一六五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる……」
33、孵化
『婦人之友』、第八十五巻第十号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年十月一日、一八二―一八三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
34、座席ひとつ
『婦人之友』、第八十三巻第九号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年九月一日、五八―五九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
35、せんたく
『婦人之友』、第八十五巻第五号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年五月一日、一八四―一八五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
36、花百匁
『婦人之友』、第八十四巻第十号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年十月一日、一四八―一四九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
37、野良
『婦人之友』、第八十三巻第一号、婦人之友社、
一九八九（昭和六十四）年一月一日、八八―八九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
38、リュックを背に
『婦人之友』、第八十六巻第三号、婦人之友社、
一九九二（平成四）年三月一日、六八―六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
39、森のはずれ
『婦人之友』、第八十三巻第十一号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年十一月一日、一五六―一五七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」

40、木守り
『婦人之友』、第八十六巻第二号、婦人之友社、
一九九二（平成四）年二月一日、七八―七九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
41、遠い港
『婦人之友』、第八十四巻第四号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年四月一日、一六八―一六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
42、ことばの住処
『婦人之友』、第八十二巻第十一号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年十一月一日、一六八―一六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
43、手をふるもの
『婦人之友』、第八十三巻第三号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年三月一日、八〇―八一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
44、歌う
『婦人之友』、第八十二巻第七号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年七月一日、一六八―一六九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
45、架け橋
『婦人之友』、第八十二巻第六号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年六月一日、一六六―一六七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
46、鏡
『婦人之友』、第八十四巻第十二号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年十二月一日、五〇―五一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
47、きのうの朝
『婦人之友』、第八十五巻第一号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年一月一日、八四―八五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」

48、抱く
『婦人之友』、第八十三巻第十二号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年十二月一日、一七二―一七三頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
49、窓
『婦人之友』、第八十三巻第四号、婦人之友社、
一九八九（平成元）年四月一日、一五八―一五九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
50、寒い町
『婦人之友』、第八十一巻第十二号、婦人之友社、
一九八七（昭和六十二）年十二月一日、一三六―一三七頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる……」
51、訪問
『婦人之友』、第八十五巻第四号、婦人之友社、
一九九一（平成三）年四月一日、七八―七九頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
52、時々刻々
『婦人之友』、第八十二巻第十二号、婦人之友社、
一九八八（昭和六十三）年十二月一日、一九四―一九五頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」
53、初日
『婦人之友』、第八十四巻第一号、婦人之友社、
一九九〇（平成二）年一月一日、五〇―五一頁、
コーナー名「暮らしの中によみがえる詩」